

令和5年度 第6回豊南地域会議 会議録

■日 時 令和5年10月26日(木) 午後6時30分～7時45分

■会 場 豊南交流館 1階 大会議室

■出席者 <委員> 岡田 剛 大富 晃 川上 正弘 貴堂 悦弘
小戸 昌則 小林 俊一 柴田 省吾 鈴木 久雄
柘植 紀宏 辻川 厚良 中島 浩 辻川 厚良
山下 安則
※欠席者 天野 昭一郎 伊藤 信行 内田 昌利
小玉 知子 良知 晶子

<事務局> 岡本 裕之(地域支援課 課長)
塚田 征弘(地域支援課 担当長)
杉浦 由里江(地域支援課 主事)

■次 第

開 会

- 1 豊田市民の誓い唱和
- 2 会長あいさつ
- 3 答申に向けた協議
- 4 事務連絡

閉 会

■議 事(要約)

・答申に向けた協議

3つのグループに分かれ、各委員が作成した意見シートの内容をもとに意見交換を行った。各委員の意見については別紙のとおり

・事務連絡

第10期豊南地域会議委員選考委員会について、情報提供をした。

第6回豊南地域会議 グループワーク（意見シートをもとに作成）

◆「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」について

Aグループ

- ・豊南地域としても、妥当と考える。

Bグループ

・「暮らし楽しむまち」という部分について、市内で休日に楽しむ場所があるかといわれるとまだまだだと思う。これからのことを考えて、スローガンとしては妥当。

Cグループ

・「ミライへ」つながる「ミライを」つくるのように、言葉の前にミライを入れた方が良い。

◆めざす姿について

Aグループ

・めざす姿として妥当と考える。つながりを強化する施策の再考と、生活機能拠点の分散も必要だと思う。

・もう少し具体的な表現を入れてほしい。イメージがしづらい。

・豊田市の市街地は「つながり」が少ないと感じている。特に子育て世代は、忙しいためか「つながり」が少なくなっている。無理なく地域につながる支援をさらに進めることが望まれる。

・豊南地区は地域の祭り等、継承しなければいけない行事において、高齢者と子どものつながりを大事にして進めているので目指す姿としてこの表現は良い。

・増えてきた外国人も地域とつながることができるように、平かなを使った優しい日本語を用いて、説明を実施する等配慮がなされているのでめざす姿として良い。

・「つながりを通じ、多様な価値や可能性を創出するまち」という部分に関連して、次のことを地域で取り組む必要がある。

1 いかにかに地元意識をもって、地域の活動に参加してもらえかがつながりの第一歩だと思う。

2 自治区は魅力あるイベントや共感を得られるイベントの企画を実行する。

3 各地域には思わぬ才能を持った人物が埋もれている可能性があり、その発掘をする。

4 豊南中学校区外の山間部地域との交流を企画実行する。

・「変化と挑戦」に関連して次のことを地域で取り組む必要がある。

1 デジタル技術を活用した自治区活動の推進（例えば紙資料の撤廃）

2 意識改革で自治区運営への女性の積極的な参画

3 高齢者の移動支援について、豊南地区全体でとらえ、合同で具体策を検討する

Bグループ

・現在、PTAは過渡期であり、任意団体となったのでそれぞれの学校で問題となっている。今まさに親、先生、こどものつながりが問われているときだと思うので、人と人のつながりを大事にしていくという姿は良い。

・問題点がよくわからない、ターゲットは誰なのかを明確にしてほしい。

Cグループ

- ・つながりは地区を超えた、より多くの人を実感できるものであってほしい。
- ・「継承」「深化」が地域活動ひとつひとつのキーワードとして定着してほしい。

◆まちづくりの基本的な考え方について

Aグループ

- ・考え方は素晴らしい。過去の例や他の自治体にとらわれず、全国の先進例となることを望む。
- ・社会潮流の変化に対応して、施策も柔軟に変えていく必要がある。
- ・発想の転換のうち、「あるものを生かす」はSDGsにもなり、とても重要だと思う。新しいものを作るのではなく、今あるものを見つけ、それを生かす発想への転換を押し進めてほしい。
- ・3つの「変える」について、外国人と共生していくような価値観を認め、時代の変化に柔軟に対応し、行動につなげていくことは重要。意識を変えることは大変であるため、より一層押し進めてほしい。
- ・考え方に異論はないが、実現させるための具体的方策がないと単なる絵にかいた餅になってしまう。
- ・「発想の転換」に関連して次のように考える。
 - 1 自治区の最小規模を決め、小規模自治区は併合させる
 - 2 福祉送迎車、病院内巡回車等の今ある車両の使い方を地域巡回バスとして活用を考える
 - 3 市からの自治区補助金の一部を区長手当、副区長手当として割り当てる
 - 4 豊寿園から病院経由の豊田市駅までのバス路線（通称裏248）を走らせる
- ・「変える」に関連して次のように考える。
 - 1 交流館に無料Wi-Fiを導入し、ネット社会に追従できるようにする
 - 2 交流館図書室の本を廃止、電子図書に変更し、各机に閲覧モニターを設置する
 - 3 コミュニティの会合はよほどのことがない限り、オンラインで実施する
 - 4 自治区活動に関連する市役所の各部門は休日対応を可能にする
→自治区長を現役世代でも就任しやすい環境にする

Bグループ

- ・発想の転換はとても重要。10代から70代までの幅広い人材づくりを押し進めてほしい。
- ・リニアの駅ができるといったことよりも、自動運転を利用した取組など豊田市内において利便性の高いまちづくりを目指した方が良い。

Cグループ

- ・変えるは「思考」と「行動」の2つに絞るべき（「見方」は思考に含まれる）。
- ・当たり前や思い込みの思考から脱却して、新しい考え方や行動に対して否定から入らない姿勢が大切。
- ・「どうしたら実現できるか」の思考から行動にうつす。スピード感が重要な時代に入っている。

◆【仮称】ミライ実現戦略2030の方向性について

Aグループ

- ・方向性としては、正しく良い目標だと思う。
- ・スローガンは抽象的なので、具体的な活動に落とし込む必要がある。活動は過去にとらわれず、本当に市民に寄り添ったものしてほしい。
- ・都市構造の基本的な考え方の一極集中ではなく、いくつかの拠点へ分け、拠点毎がつながるまちづくりはとても良い。
- ・小さいくくりの方が、住民同士のつながりを持つことができ、地域に密着することによって地元愛も育つので良い。この指標に賛同する。
- ・情報ネットワークの秒速的な進歩に比べ、ひと・ものについての移動方法が停滞に近い進捗状況 新しい交通手段の導入を視野に入れた対応が必要

(新しい交通手段の例)

- 1 ドローン車両…無電柱化の推進、離着陸場所の確保
 - 2 自動運転車両の導入…豊田市駅～スタジアムで実験開始、住宅モデル地区での実証実験
 - 3 自動車専用車線の拡充（電動2輪、3輪車の増加が予想される）
 - 4 道路整備…国道248号線の立体化
- ・「近隣都市の核となるまちづくり」に関連して
 - 1 岡崎、瀬戸、みよし、安城、知立等からヒトが集まるための商業施設、娯楽施設等
 - 2 豊田マラソンを基準距離に変更、商業施設の誘致、Eスポーツ施設建設、プロスポーツチームの誘致など
 - 3 近隣都市との道路、鉄道網の再構築
 - ・「災害に強いまちづくり」に関連して
 - 1 おいでんバスの水素、電動化による災害時の電力供給源としての活用、仮設待機場所として利用可能構造
 - 2 市内全交流館及び自治区公民館に太陽光パネルの設置

Bグループ

- ・豊南地域は地元の方と別地域からの移住者が半々くらいだと聞いている。他の地域と比べて、地元愛について盛り立てることはまだ先の話のような気がする。

Cグループ

- ・ミライ構想を実現するためには、横のつながりや地域の絆が大切。
- ・ひとが視点であるなら、横断的な目標は「こども」「高齢者」「地域」を3本柱とするべきだと思う。その3つが実感できてこそ、愛着や誇りにつながる。
- ・都市構造の実現に向けた方針の内容について、具体的な例が欲しいと思った。

◆その他の意見

Aグループ

- ・豊田市民で良かったと思える街づくりをしてほしい。
- ・市民に理解してもらうために、広報誌に載せたり、HPを活用するべきである。

- ・2030～2040年にかけての世の中の状況を考えていくべきである。

(想定される状況)

- 1 今の世代は間違いなく10～20歳ほど年齢が上がっている
- 2 高齢化はさらに進み、現役労働人口は大幅に減少し、生産能力は落ちている
- 3 ものづくりの日本からインテリジェンスな日本に移り変わらざるを得ない状況
- 4 自治区内高齢者世帯が増え、空き家も増えてくる
- 5 外国人労働者増加とともに治安の悪化が懸念される世の中になっている
- 6 自治区離れが進み、個人主体の生活になり、災害に対し脆弱になっている可能性がある
- 7 自動車産業の業務形態も変化し、生産台数、従業員ともに大幅に減少する可能性がある
- 8 市内中学校の中から廃校になる学校が出始める
- 9 豊田市人口が30万前後まで減少する
- 10 ますます交通機関が不便となり、陸の孤島となる危険性がある
- 11 年金減額により、生涯働かなくてはならない状況になる

Bグループ

- ・高齢者が移動に困らない環境を作してほしい。
- ・移住者も含めて、人と人がつながって暮らしていけるまちづくりをというのは難しい。地域の活動に参加した人にポイントを付与し、それを使うとごみ袋がもらえたり、市営の施設が使えるりするなどのインセンティブが欲しい。そうすれば若者も地域活動に参加する機会が多くなり、愛着もわくと思う。
- ・豊南地区内においても市街化調整区域である等の理由で世帯数が減少している。それによって高齢者クラブの存続の危機、子ども会解散の危機となっている。

Cグループ

- ・豊南地区も高齢化が進んでいるので高齢化社会に関する内容も必要だと思う。
- ・文面に難しい言葉が使っている。子どもや外国人でもわかるようなやさしい言葉を使してほしい。
- ・コミュニティへの参加について、仕事をしているから出来ないというのではなく、仕事をしていてもできるような地域活動の場づくり、コミュニティがあると良い。そのためにコミュニティに参加することのメリットがはっきりすると良い。
- ・今あるものを生かすには「何があり」「どう生かせるのか」の情報の発信が必要だと思う。また、情報は発信するだけでなく、受信できているかの検証も考えてほしい。

以上